

## 令和2年度前期 学群教育改善計画

学群(学部)名	基盤教育群
学群(学部)長名	平岡 善浩

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課題	対面授業だと講義環境や受講人数、教員のオーラルスキルの影響が大きい、遠隔授業の場合、講義方法(対話型/講話型/グループワーク)やオンライン講義ツール、教材の使い方が授業評価や授業改善計画に影響している。
	理由	遠隔授業の場合も、事前事後学習の効果、必要性が結果として出ている。講義時間中と事前事後学習の役割分担を明確にし、受講生に過重な負担にならないよう配慮しながら明確に課題を課すなど、こまめな理解度の把握が必要。
②	課題	遠隔授業(ライブ・オンデマンド)の場合、教室での対面講義よりも時間が延びるあるいは内容を短くしたりする傾向があったり、受講生も画面を注視して変化がない、集中力が続かないなど、講義方法についての改善が必要。
	理由	遠隔授業の「慣れ」の要因もあるが、対面講義の環境やノンバーバルコミュニケーションと違い、遠隔授業での情報伝達の特性をつかむ必要がある。対話講義をそのままオンラインで流しても同等の効果があるか要検証。
③	課題	遠隔授業の場合の成績評価、試験方法をどうするか。
	理由	従来通りの対面での期末試験が実施できなかった場合、オンライン対応した成績評価方法(ルーブリック)の再検討が必要。また、こまめな理解度・到達度の設定、チェック方法の検討が必要と思われる。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	今後、遠隔と対面を併用したハイブリッド型の講義が考えられる場合、シラバス構成や各回の授業方法、教材の質や課題の量、反転学習方法など、「講義時間中」と「事前事後学習」の位置づけを明確にすることがポイントである。受講生に過重な負担にならない程度の課題を効果的に出す必要がある。前期終了時点に行われた、学生および教員に対するオンライン講義に関するアンケートと合わせて分析が必要。
②	遠隔授業のシラバスや各回の授業構成に関する工夫の共有を行う。オンライン(あるいはハイブリッド)講義の場合、90分の「講話」として捉えるのではなく、例えば短いセクション(15~20分程度)に区切り、「知識提供」「課題説明」「演習」「対話・ディスカッション」など、セクションごとの位置づけをはっきりさせ、録画を活用するなど、試験的、効果的に実施された授業構成があれば、FDあるいは資料等で共有する。
③	遠隔対応の試験方法変更や、小テスト等を併用したもの、オムニバス科目やクラス分け科目などの、成績評価について事例を集め、情報共有する。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

- ① 遠隔授業では、教科書の適切な使用もしくは配布教材を充実させるなど、講義時間内の板書・スライドに加えて事後学習できる教材提供が大切。
- ② 小テストやレスポンスカード記入、反転授業など、オンラインツールや配布教材を活用した、こまめな受講状況や理解度の把握が大切。

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

今年度は群長あてに配布された前後期科目の授業改善計画に関する資料を、共有できる形に編集、他の講義の教材や講義方法に関する Good Practice の紹介、共有を行う。後期授業の改善計画と次年度前期授業の方針が定まった時点で、FDを行うのが望ましい。

## 令和2年度前期 学群教育改善計画

学群(学部)名	看護学群
学群(学部)長名	高橋 和子

1-①. 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。 ※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。					
①	<table border="1"> <tr> <td>課題</td> <td>オンラインでの遠隔授業が主であったが、後から、内容が難しい、進め方が早くてついていけなかった、どこの説明をしているのか分からなかった等のコメントが寄せられていた。</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>教員側も、遠隔授業は、初めてである場合が多く、授業時に学生の表情・反応を把握することが難しい状況もあった。実施方法について工夫をしていたものの、教員が期待した成果に至っていない場合もあった。</td> </tr> </table>	課題	オンラインでの遠隔授業が主であったが、後から、内容が難しい、進め方が早くてついていけなかった、どこの説明をしているのか分からなかった等のコメントが寄せられていた。	理由	教員側も、遠隔授業は、初めてである場合が多く、授業時に学生の表情・反応を把握することが難しい状況もあった。実施方法について工夫をしていたものの、教員が期待した成果に至っていない場合もあった。
課題	オンラインでの遠隔授業が主であったが、後から、内容が難しい、進め方が早くてついていけなかった、どこの説明をしているのか分からなかった等のコメントが寄せられていた。				
理由	教員側も、遠隔授業は、初めてである場合が多く、授業時に学生の表情・反応を把握することが難しい状況もあった。実施方法について工夫をしていたものの、教員が期待した成果に至っていない場合もあった。				
②	<table border="1"> <tr> <td>課題</td> <td>多くの科目で、自己学習課題やレポートが課されていたが、課題の多さに負担に感じていた学生と、学修の方法やポイントが分かり良かった等、捉え方が二分されていた。</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>単純には比較できないが、少なくとも昨年度後期より、週当たりの授業外の学習時間が総体的に長くなっている。大学側としては、授業以外の学修時間を長くすることが継続的な課題となっており、学生と教員側で、授業外に必要な学修時間の認識に差がある。</td> </tr> </table>	課題	多くの科目で、自己学習課題やレポートが課されていたが、課題の多さに負担に感じていた学生と、学修の方法やポイントが分かり良かった等、捉え方が二分されていた。	理由	単純には比較できないが、少なくとも昨年度後期より、週当たりの授業外の学習時間が総体的に長くなっている。大学側としては、授業以外の学修時間を長くすることが継続的な課題となっており、学生と教員側で、授業外に必要な学修時間の認識に差がある。
課題	多くの科目で、自己学習課題やレポートが課されていたが、課題の多さに負担に感じていた学生と、学修の方法やポイントが分かり良かった等、捉え方が二分されていた。				
理由	単純には比較できないが、少なくとも昨年度後期より、週当たりの授業外の学習時間が総体的に長くなっている。大学側としては、授業以外の学修時間を長くすることが継続的な課題となっており、学生と教員側で、授業外に必要な学修時間の認識に差がある。				
③	<table border="1"> <tr> <td>課題</td> <td>遠隔システムを用いて、ディスカッション等のグループワークを行えた科目は、演習においても比較的満足できる学習の成果が挙げられていた。一方で、看護技術等の実技演習を行う科目では、対面での演習を実施することができず、大きな影響が生じた。</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>新型コロナウイルス感染症拡大を防止する対応として、対面授業が制限された。</td> </tr> </table>	課題	遠隔システムを用いて、ディスカッション等のグループワークを行えた科目は、演習においても比較的満足できる学習の成果が挙げられていた。一方で、看護技術等の実技演習を行う科目では、対面での演習を実施することができず、大きな影響が生じた。	理由	新型コロナウイルス感染症拡大を防止する対応として、対面授業が制限された。
課題	遠隔システムを用いて、ディスカッション等のグループワークを行えた科目は、演習においても比較的満足できる学習の成果が挙げられていた。一方で、看護技術等の実技演習を行う科目では、対面での演習を実施することができず、大きな影響が生じた。				
理由	新型コロナウイルス感染症拡大を防止する対応として、対面授業が制限された。				
1-②. 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。					
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠隔授業においても、レスポンスカードを活用して、講義毎に、前回の学生からの記載内容にフィードバックしている科目もあり、改善点等が早期にキャッチ・対応されていた。看護学群においては可能な限り、対面での授業を実施しており、学生の反応を確認しながら、授業展開が図られるよう、より意識する。</li> <li>・分からないこと等がある場合は、学生から教員に伝えるということも授業の相互性を高めることにつながる。引き続き、学生に積極的な授業への参加を促す。</li> </ul>				
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生数や授業内容にあった講義室の使用を考慮するとともに、期待する学修効果が想定される学修システム等の導入を検討する。また、令和4年度から、保健師助産師看護師学校指定規則の変更により、新カリキュラムによる教育が開始される。そのため、不具合があったり、改善することにより学修効果の向上が期待できる学修環境を把握し、修繕を行うことで、学習環境を整備する。</li> </ul>				
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護技術については、対面での授業が再開され、感染対策を行った上で実施方法の工夫を図り、演習を行っている。一部の演習は、遠隔でも実施可能であり、引き続き、感染対策に充分留意し、学習方法の組み合わせや新たな方法を試みるなどして、看護技術修得に関わる科目を展開する。</li> </ul>				

2-①. 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の展開方法の整理：事前・事後学修で自分で確認できる内容、対面で実施する必要がある内容、モデルやシミュレーターで習熟する必要がある内容等に整理し、学修のつながりを見えやすくする。</li> <li>・レスポンスカードの活用：毎回講義の前半20～30分を前回講義の質疑、補充、課題についての解説にあて、理解の補強を行った。</li> </ul>	
2-②. 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員会議や学群内の会議等で紹介し、情報を共有する。</li> <li>・看護学群のFD等を通して、学修意欲の向上につながる、事前・事後学修の教材の作成、これまであまり用いられていなかった学修支援システム等の活用による新たな学修方法の展開、シミュレーション教育の強化による実践能力の向上を図る。</li> </ul>	

## 令和2年度前期 学群教育改善計画

学群(学部)名	事業構想学群
学群(学部)長名	中田千彦

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課題	大教室での講義系リアルタイム(ライブ)による遠隔授業の実施環境の整備について、使用機材の設置方法や運用などに関する課題が整理された。
	理由	COVID-19感染症対策に伴い、大教室(多人数)の講義科目が遠隔での実施となり、授業配信のためのスタジオ形式の教育設備がこれまでとは異なる準備や運営を必要とされることが顕在化したから。
②	課題	演習(実技系演習)と対面による卒業研究指導において、感染症対策を十分にするための様々な試行錯誤が行われ、従前とは異なる教育環境の必要性が注目されるようになった。
	理由	遠隔での個別指導そのものの運営は大きな課題とされないが、個別の研究や指導の内容の確認を緻密に進めていく上では、旧来の対面型の指導と異なり、その成果を確認するための方法について新たな技術開発が求められている。
③	課題	課外活動などによる大学での学習や研究に関する相乗効果を大きく期待できない状況が長く続くことになった。
	理由	時間割上の学習だけでなく、図書館でのリサーチや課外活動を通じた情報共有が、日々の大学における学習に大きく貢献しているが、その代替手段を遠隔で獲得することの困難さが露見したと言える。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	取組	COVID-19感染症対策に伴い、事業構想学群では速やかに遠隔授業の実施体制を整え、大学全体として通信によるリモート会議システムを活用した講義系授業を展開して、各担当教員からの実績報告を集約することで大学のける講義系授業の遠隔化については順調に進めることができた。一方で、対面授業で実施されて来たペーパーテスト(ミニレポートなども含む)や質疑応答、小規模のワークショップなどを遠隔のシステムでそのまま運用することは難しく、実現可能性の高い手法に置き換え、場合によっては技術開発を行いながら問題解決に取り組む姿勢を獲得できたことが大きな収穫と言える。
	効果	前期の間は遠隔(リモート)での実施が中心となった。その中で、対面で行う必要性のあるもの、遠隔でできること(遠隔であるからこそ効果を発揮することも含む)の峻別を進めていきながら、従来のような全てを対面で行って来た状況に甘んじることなく、新しい日常における対面(面談による指導)の本質的な必要性を吟味し、それが許容される限られた状況における教育研究のあり方について、緻密な手法開発を必要としていることが見えて来たので、その話題を大学教育における今後の展望として位置付けつつ、高等教育にふさわしい教育研究を展開していく必要性が高まったと言える。
③	取組	大学での学生生活が、単に授業を受けたり試験を受けたりすることだけでなく、その合間に生じる課外活動や交流活動によって充実されていたことに気づかされる事態となった。一方で、感染対策を考慮すると不用意にそれらを容認することは難しく、感染予防を徹底しつつも大学生活の活性化につながるこうした課外活動や交流のありかたについて、真剣に考察し実施検討する必要性も高まっていることが確認された。今後、多様な知見を参照しつつ、宮城大学であるからこそ実現可能な大学の空間や環境をいかした課外活動や交流事業の実施に取り組んでいきたい。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

2020年7月に竣工したデザイン研究棟は、デザイン系演習や卒業研究の実践の場として学生の作業などを効率化させるための空間性、開放性が備えられた建物とのあっており、この教育環境を活用した新しい演習、実習の実践と精緻化しつつある遠隔授業の展開の組み合わせが、今後の取り組みの指針になると考えられる。

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

学群全体として、上記のような実践を普及、波及させながら、デザイン系に限定されない教育研究手法の開発に取り組んでいきたい。特にIoTやDXを活用して教材や教授方法の開発や展開には大きな可能性が感じられ、第三期中期計画で取り組む様々な活動や事業とも円滑に連動させ、実践的な教育改善が進捗することが期待されている。

## 令和2年度前期 学群教育改善計画

学群(学部)名	食産業学群
学群(学部)長名	西川正純

1-①. 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課題	継続：事前・事後学修について今期は遠隔授業であったことから各教員は課題等を提示しているケースが多かった。しかしながら、時間の確保が昨年より延びてはいるものの十分でない状況が伺える。
	理由	コロナ禍の影響で前期は全て遠隔授業で実施したこともあり、事前・事後の学習時間の確保について指導が行き届かなかったことが挙げられる。
②	課題	継続：専門基礎科目・専門科目の座学は今期、遠隔授業で実施し、運営は概ね良好であった。しかしながら授業の理解度については、学生が思う目標到達度と教員が想定している到達度の間に差があるとの意見もあり、改善すべき課題であると考えます。
	理由	十分に学修効果が得られなかったなどが理由として、講義の追加説明などで板書が使えずほとんど口頭であったこと、接続環境の問題から一方的に講義を進めるケースが多く、双方向のディスカッションが行えなかったことなどが挙げられる。
③	課題	今期は遠隔授業であったことから、対面で行う必要がある実験・実習科目は、概要等の説明以外の操作や作業を伴う部分については後期で実施することとしたので、学修機会が十分に確保できなかった。
	理由	コロナ禍の影響で前期は全て遠隔授業で実施したことが理由である。

1-②. 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	本課題については、対面授業、遠隔授業であっても事前・事後学修時間は十分な時間の確保が出来ていない。各教員は宿題、小レポート、小テスト、グループワーク、練習問題等、事前・事後学修を促進する取り組みや履修者同士の教え合い、学ぶ合うことで主体的で能動的な学びを実現できるLTD (Learning Through Discussion) を取り入れるなどして、継続的かつ積極的に進めていただくしかない。より一層事前・事後学修を促すよう2月の教員会議・教授会、学類会を通じて、お願いする。
	本年度の後期授業については、専門基礎科目・専門科目は7割以上、対面授業で実施しており、課題は改善していると考えます。ただ遠隔授業では、履修学生から講義資料が見易い、集中できるなどの利点も聞かれることから、遠隔と対面を組み合わせるハイブリット型授業について、次年度FD等で討議したいと考えています。
	前期実施予定であった実験・実習科目の操作や作業については、後期に繰り越して対面で実施しているので、解決に向かっている。ただし、次年度以降も新型コロナ或いは新たな感染症の拡大も考えられることから、遠隔授業による実験・実習科目の操作や作業の実施方法について、次年度FD等で討議したいと考えています。

2-①. 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

授業実施の良い事例としては、今期は遠隔授業であったことから、Forms による出欠確認と共にコメントを記入させる科目が多かった。そのこともあり、積極的にコメントや質問を寄せる学生も多く理解度の底上げに繋がったと考えられる。また、講義資料を予めTeams にアップし事前に学生が目を通しておけるよう工夫した科目も多かった。

2-②. 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

教育改善計画としては、次年度は従来の対面授業が中心となると予想されることから昨年に引き続き、自主的な学習に期待してもなかなか取り組めない学生向けに、事前に学ぶポイントを伝え授業に臨ませる、配布される資料の読み方、使い方について指導し、読んだかどうかの確認等を行う。さらに、双方向型授業、アクティブラーニング授業、授業外学修の定着に向けた講習会(FD)、さらに遠隔と対面を組み合わせるハイブリット型授業の可能性について、学群・研究科の教務委員会で年度内にスケジュール化して実現する。